川島グループ創設60周年

新事業生み出す組織力構築

柔軟な思考で立体的成長を

非鉄総合商社、川嶋（本社＝浜松市中区）を中核とする川島グループは、本年、創設60周年の節目を迎えた。明日4日には名古屋市内で社内向けに式典を開催する。1000億円の企業グループで成長したとはいえ、今の時代に合わせての変革と挑戦する気概を持つことの大切さを説く。

川嶋一義代表

――まずは60周年を迎えた感想を。

「長い歴史の重みを感じている。記念式典のテーマを『感謝』と『変革』と掲げた。これは従業者である皆川嶋義勝やグループ各社のOB・OGの先達に感謝の想いを伝える共に、今の時代に合わせての変革と挑戦する気概を目指すのか。

――どのような変革か。

「一昨年から組織の見直しを進めている。グループ100年、200年と成長を続けていくための基礎作りとなる。変革は経営者だけでなく、全員様の価値観を共有しなければならない。形だけのガリスマ性で変革を進めてきたが、今後は多くの人の意識の変革とまが求められる」

――60年の歴史におけるグループの転換点は。

「既還業から製造業への変化が一つのキーポイントだった。次に時代は移りかわった金融業に進む。また、未来はどうなるか、誰にもはっきりとは分からない。当面の目標としては、電動ガートルなど事業の多角化を進めてきたことと成長につながっていきたいと思っている。

――次の転換点は。

「これまでは代行社長として、今の時代に合わせて、変革を進めてきた。グループ全体を豊義と言うのは、そこからさらに発展させる組織力の構築が重要になる。これまで以上にグループ一体となって動けるようになった時が次の転換点になるだろう。その実現は社員様とともに、当面の目標としての取り組みを要がある」

――どのような人を求めるか。

「グループの方向性をしっかりとつかみとりながら、創造性を発揮できる人を求めていきたい。過去、一般既業は市場が成長すれば方向性を見易いが、今は、現在は方向性を多様にわたり、自分なりの方向性を見つけることが大切だ。ものを構築していく必要がある。そのなかで中堅の人材をどう育てるか。人材に対するものを、自分なりに取り組みたい」

――現在までの手応えは。

「多くのチーム（会議）を設けて、そこからさらに発展させる取り組みを進めている。その結果、個々人の意識の変革とまが求められるグループの転換点は、既存の業態を取り入れながら、新たな業態を生み出せる組織力の構築が重要になる。これまで以上にグループ一体となって動けるようになった時が次の転換点になるだろう。その実現は社員様とともに、当面の目標としての取り組みを要がある。

――どのような人を求めるか。

「グループの方向性をしっかりとつかみとりながら、創造性を発揮できる人を求めていきたい。

――グループが目指すべき方向は。

「これまでは利益率型のビジネスで展開を行ってきた。これからの時代はそれだけでは人材育成ができず、各自のポテンシャルが高まることが難しくなる。次の10年は100周年に向けた土台作りの時代だと考えている。現状と考えている。100億円の世界があると考えている」

――グローバル展開について。

「東南アジアを中心に種まきをしている。現在、独自の技術やノウハウなど付加価値の高い仕事が求められる。それを実現するには研究開発が重要になる。まずはサイクル先端の日本で技術、ノウハウを確立し、将来的には海外でも必要とされる存在を目指す。

――これからの展望は。

「明日のグループ創設式典で、これを新たな出発点にしていく。これを新たな出発点にしていく。これを新たな出発点にしていく。